

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年4月30日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21700635

研究課題名（和文） プロスポーツが地域社会に与える影響についての時系列的研究

研究課題名（英文） A time series research on the effects of professional sports on community

研究代表者

松岡 宏高（MATSUOKA HIROTAKA）

早稲田大学・スポーツ科学学術院・准教授

研究者番号：10367914

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、地域に新しいプロスポーツチームが現れることによって、その地域に起こる変化について時系列の調査分析を行い、プロスポーツが地域社会に与える影響を明らかにすることであった。2010年から参入したプロバスケットボールチームのホームゲームにおける観戦者および地域住民を対象に質問紙調査を実施した。チームの誕生によって、地域の人々のスポーツへの関心が高まり、地域への心理的コミットメントも高まり、人々はチームが地域活性化に役立っていると評価していることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to investigate the effects of a new professional sport team on community by conducting a time series survey which focused on changes in community. Data was collected from spectators of home games played by the new team and people living in and around its hometown. It was revealed that due to the new team entry, people's interests in sports were enhanced; people's psychological commitment to the community became higher; and people highly evaluated the team's contribution to the community activation.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
23年度	800,000	240,000	1,040,000
22年度	500,000	150,000	650,000
21年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：スポーツマネジメント

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学，スポーツ科学

キーワード：プロスポーツ、地域、スポーツ観戦者

1. 研究開始当初の背景

わが国のスポーツは、学校、企業、そして行政を中心として発展してきたが、そのシステムはさまざまな綻びを見せ始め、昨今では、地域をベースとしてスポーツの普及、発展に取り組むシステムへとスポーツ界全体が移

行しつつある。スポーツ振興の担い手として、各市町村で総合型地域スポーツクラブの設立、育成への取り組みが展開されている一方で、「見るスポーツ」をエンタテインメントとして提供するプロスポーツにおいても、地域を中心とした取り組みに注目が集まってい

る。

わが国で80年以上の歴史を持つプロ野球は、長きにわたり各球団が親会社の広告塔に過ぎず、地域に根付かないまま経営を続けてきた。その結果、2004年には球団合併、売却という問題が浮かび上がった。その後、地域に根ざしたチームづくりへと方針を切り替え始める球団も出現し始め、新しいファンを開拓し、成功を収めつつある。

また、Jリーグは、1993年のスタート当初から地域に根ざしたチームづくりを目指し、チーム名から企業名を外し、地名を入れるなどの試みを重ねてきた。地域の人びとの健康な体づくりや青少年の健全な育成に寄与するために、「Jリーグ百年構想」のスローガンのもと、各クラブが地域スポーツの振興活動を積極的に行っている。現在もJクラブの設立、育成を目指した取り組みが全国各地で進められている。

Jリーグのこのような動きに習い、他の種目のスポーツにおいても地域密着型としてのスタートを試みるリーグやチームが現れている。bjリーグもその1つであり、「バスケットボールを通じた一つのコミュニティ社会の創造とその拡大により社会に貢献すること」を理念に、2005年にスタートした。ホームタウン制、地元密着型球団経営により支持基盤の安定、拡大を図ることを目指して活動し、2008年シーズンには12チームとなっている。また、野球でも地域を基盤にした独立リーグの構想が浮上し、2005年には四国アイランドリーグが、そして2007年には北信越BCリーグが誕生した。

このようなプロスポーツ組織は、地域住民が支払う観戦チケット代や地域の企業等によるスポンサー契約料による収入によって成立しているため、チームやクラブが地域に貢献していることを示すことによって、地域社会からの支持を得ることがクラブやチームの経営の成功に結びつくと考えられる

(Sutton et al., 1997; 松岡, 2004; 藤本, 2008)。つまり、地域社会に対してプラスとなるさまざまな影響を与え、プロチームやクラブの存在価値が認められることが必要である。

プロスポーツクラブやチームの地域貢献に関する取組みについては、とくにJリーグのクラブについて、そのホームタウンである地域への影響が分析され、評価されている(松橋・金子, 2007; 柳沢, 2006 他)。また、プロスポーツのみならずスポーツイベントも含めて、スポーツがまちに影響を与えることがさまざまな事例から確認されている(原田, 2002)。

しかしながら、それらの研究、論述は、その影響が見られるようになった後の一時点において収集したデータがもとになってお

り、その影響を引き起こした現象の前後でデータを収集し、比較した研究は見られない。

2. 研究の目的

本研究では、地域に新しいプロスポーツ組織(クラブやチーム)が現れることによって、その地域社会に起こるさまざまな変化について、その事前から事後にかけて時系列の調査分析を行い、プロスポーツが地域社会に与える影響を明らかにすることを目的とする。

本研究の結果はプロスポーツが地域社会に与える多様な影響を検討するうえでの重要な資料になる。また、実際にプロスポーツチームを設立、あるいは誘致することによって、地域活性化を試みる地方自治体にとっても参考となる資料の提示が可能である。

3. 研究の方法

(1) 2010年に秋田県に誕生したプロバスケットボールチームの秋田市でのホームゲームにおける観戦者を対象に質問紙調査を実施した。2011年11月に実施された2試合において、453の有効回答を回収した。このデータをチーム誕生前年の2009年に行われたプレシーズンマッチおよび2010年のリーグ戦にて収集したデータと比較し、観戦者の意識の変化の確認を試みた。

(2) チームが本拠地とする秋田県内の住民のスポーツおよび地域に対する意識の変化を明らかにすることを目的として、小・中学生およびその親を対象に質問紙調査を実施した。本研究で対象としたプロスポーツチームのリーグ参入2年目のシーズン前半にあたる2011年12月に、本拠地であるA県内の小、中学生を対象に質問紙調査を実施した。質問紙には、対象者の属性、スポーツ実施およびスポーツへの関心、地域愛着、地域支援、そして地域自治の意識に関する項目が含まれた。

A県内から3つの市を選び、その3市に含まれる4つの小学校、および3つの中学校を調査対象とした。学校ごとに質問紙を送付し、小学5年生と6年生、および中学2年生を対象にして、クラスごとに配布、回収を依頼した。その結果、小学生420人、および中学生341人の計761人から回答が得られた。

4. 研究成果

(1) 先行研究のレビュー結果

その数は未だ少ないが、スポーツが地域社会に与える影響の測定を試みる研究も現れ始めた。スポーツイベントやスポーツクラブなどでのスポーツ実施活動が、ソーシャル・キャピタルを高めたり、地域の問題解決に役立ったりすることが明らかにされている

(Nicholson & Hoye, 2008; 長積ほか, 2009;

Okayasu et al., 2010)。また、プロスポーツの地域における価値についても、その確認が試みられている (Zhang et al., 1996)。特に新しく誕生したプロスポーツチームについて、その経済的効果だけでなく、地域およびファンや観戦者に対する社会心理的影響についての検討も行われている (James et al., 2002; Lock et al., 2009; Nigel et al., 2011)。

(2) ホームゲーム観戦者を対象にした調査の結果

秋田にプロチームが立ち上がる前年である 2009 年からチーム設立後の 2010 年および 2011 年にかけて、秋田市内でのプロバスケットボールの試合における観戦者の意識がどのように変化するかについて検討するために質問紙調査を実施した。

その結果、「チームの誕生が地域の活性化に役立っている (5 段階尺度)」という項目に対する回答が、チーム誕生前年の 2009 年の観戦者 (M=4.26, n=365) に比べて 2010 年の観戦者 (M=4.44, n=469) および 2011 年の観戦者 (M=4.47, n=453) のほうが有意に高いことが確認された。

また、地域住民のバスケットボールをすることおよび見ることへの関心がチームの誕生によって高まったかどうかについても、2009 年観戦者に比べて 2010 年及び 2011 年の観戦者のほうが統計的に有意に高い評価を示した。同様の質問項目で子どものバスケットボールをすることおよび見る関心についても聞いたところ、同じように 2010 年および 2011 年のほうが高く評価されていた。

さらに、秋田という地域に対する心理的コミットメントも 3 項目を用いて測定した。これについても 2009 年が 4.16 (5 段階尺度) ポイントであったのに対して、2010 年が 4.28 ポイント、そして 2011 年が 4.38 ポイントと、統計的に有意に上昇したことが確認された。

(3) プロスポーツチームの地域住民を対象にした調査の結果

2010 年シーズンにプロバスケットボールの bj リーグに参入した秋田県のチームを対象に、その参入後 1 年間のチームの存在と活動が地域社会に与えた影響について分析を試みた。秋田県内の小、中学生のスポーツおよび地域に対する意識とホームゲーム観戦経験の関係を分析した結果が以下に示したものである。

まず回答者の性別は、男性が 374 人 (49.3%) で、女性が 384 人 (50.7%) であった。回答者の 96.3% (n=728) がチームの存在を知っており、そのうち 22.7% (n=163) が試合を見たことがあると回答した。チームが地域社

会に与える影響の検討については、この観戦経験がある対象者と観戦経験のない対象者 (n=554) において各項目の比較分析を行った。

回答者の現在のスポーツ実施および観戦の程度について、プロスポーツの試合観戦経験有無によるグループ間で比較した分析結果を示したものが表 1 である。各項目を「1. 全くやっていない」から「5. よくやっている」の 5 段階尺度で測定した結果、スポーツ実施、試合会場での観戦、そしてテレビでの観戦のすべての項目において、観戦経験ありのグループが統計的に有意に高い値を示した。

表 1 観戦経験有無によるスポーツ関与程度

	観戦有 (n=163)	観戦無 (n=552)	t 値
スポーツの実施	4.33	3.91	3.44**
試合会場での スポーツ観戦	3.60	2.71	7.11**
テレビでのスポーツ観戦	4.09	3.46	6.43**

**p<.01

次に、同様の分析をスポーツ実施および観戦の意図について行った結果を示したものが表 2 である (「1. まったく思わない」～「5. とても思う」)。バスケットボールの試合観戦意図については、観戦経験者のほうが高い値を示すことは容易に想像できたことであるが、その他の 3 項目においても統計的に有意に高い値を示した。つまり、ホームチームの試合観戦経験とスポーツへの関与にはポジティブな関係があることが確認された。

表 2 観戦経験有無によるスポーツ関与意図

	観戦有 (n=163)	観戦無 (n=554)	t 値
バスケットボールを 試合会場で見たい	4.15	2.64	13.9**
スポーツをやりたい (つづけたい)	4.25	3.83	4.08**
スポーツを試合会場で見たい	4.37	3.57	8.12**
スポーツをテレビで見たい	4.15	3.51	6.62**

**p<.01

表 3 は、ホームタウンへの愛着を 3 項目の合成変数で測定した結果を観戦経験有無のグループ間で比較した結果を示したものである。表に示した数値は 5 段階尺度で測定した 3 項目の平均値であり、高いほど愛着の高さを表している。平均値を比較した結果、観戦経験がある回答者群のほうが統計的に有意に高い値を示した。

表3 観戦経験有無による地域愛着の比較

	観戦有 (n=163)	観戦無 (n=554)	t 値
「A (地名)」への愛着	4.12	3.92	2.74**

**p<.01

表4は、ボランティア活動に対する興味の程度を観戦経験有無のグループで比較した結果を示したものである(「1. まったくない」～「5. とてもある」)。地域での一般的なボランティア活動およびスポーツ関連のボランティア活動のそれぞれに対して、観戦経験有群が有意に高い値を示した。

最後に、「地域をよりよくしたいと感じ、それに対して積極的に協力して地域の問題やまちづくりを進めようとする(長積ほか, 2009, P. 4)」態度を示す「自治」の意識に関連する項目を測定した結果においても、すべての項目において観戦経験のある回答者のほうが高い値を示した(「1. まったくあてはまらない」～「5. とてもあてはまる」)。つまり、観戦経験のある小中学生のほうが地域をよりよくするために積極的に関与する意図を持っていることが明らかになった。

表4 観戦経験有無とボランティアへの興味

	観戦有 (n=163)	観戦無 (n=551)	t 値
地域でのボランティア活動に対する興味	3.59	3.32	3.16**
スポーツ関連のボランティア活動に対する興味	3.67	3.21	4.83**

**p<.01

表5 観戦経験有無と地域の自治意識の比較

	観戦有 (n=163)	観戦無 (n=552)	t 値
地域をよりよくするための活動であるならば、積極的に協力したい	3.72	3.54	2.22*
地域の生活上の問題は、住民のみんなが協力し合って解決すべきだ	4.04	3.83	2.75**
地域のみんなと力を合わせて、地域の育成やまちづくりを進めていきたい	3.87	3.69	2.17*

*p<.05 **p<.01

(4) 成果のまとめ

近年、Jリーグおよび所属クラブの各地域でのある程度の成功を契機として、バスケットボールのbjリーグや野球独立リーグなどの地域密着型プロスポーツ組織が全国各地で創設されつつあるが、プロスポーツの社会的影響の検証が十分ではない現状においては、プロスポーツが地域社会に好影響を与えると切り切るには、尚早であろう。地域密着型プロスポーツ創造の動きを促進するためには、プロスポーツのポジティブな社会的影響を明らかにすることは重要である。

本研究では、プロスポーツチームの存在と活動が地域社会に与える影響について検討するために、ホームゲーム観戦者、および地域の小・中学生のスポーツおよび地域に対する意識の変化について検討を試みた。ホームゲーム観戦者の時系列的な変化は確認することができ、プロスポーツが観戦者の態度に与える影響は確認できた。一方、小・中学生を対象にした調査からは、観戦経験とスポーツ関与のポジティブな関係、および観戦経験と地域愛着や地域の自治意識のポジティブな関係が明らかになり、プロスポーツの地域社会への好影響の存在の可能性が確認されたが、その因果関係の検討には至っていない。今後も、プロスポーツが地域社会にもたらす影響について、さらに継続した研究が必要である。

(5) 参考文献

- Grant, N., Heere, B., & Dickson, G. (2011). New sport teams and the development of brand community. *European Sport Management Quarterly*, 11(1), 35-54.
- James, J., Kolbe, R., & Trail, G. (2002). Psychological connection to a new sport team: Building or maintaining the consumer base. *Sport Marketing Quarterly*, 11(4), 215-225.
- Lock, D., Darcy, S., & Taylor, T. (2009). Starting with a clean slate: An analysis of member identification for a new sports team. *Sports Management Review*, 12(1), 15-25.
- 長積仁, 榎本悟, 曾根幹子. (2009). 地域スポーツクラブがコミュニティにもたらす影響: プログラムへの参加とソーシャルキャピタルとの関係性の検討. *生涯スポーツ学研究*, 6(2), 1-11.

5. 主な発表論文等

[学会発表] (計2件)

- ① 松岡宏高, プロスポーツが地域社会に与える影響: 試合観戦経験とスポーツおよび地域意識の関係, 日本体育スポーツ経営学会第35回学会大会, 2012, 鳴門教育大学.
- ② Matsuoka, H. et al. How did a new sport team make changes to a community? The 19th conference of European Association for Sport Management, 2011, Madrid, Spain.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松岡 宏高 (MATSUOKA HIROTAKA)

早稲田大学・スポーツ科学学術院・准教授
研究者番号: 10367914